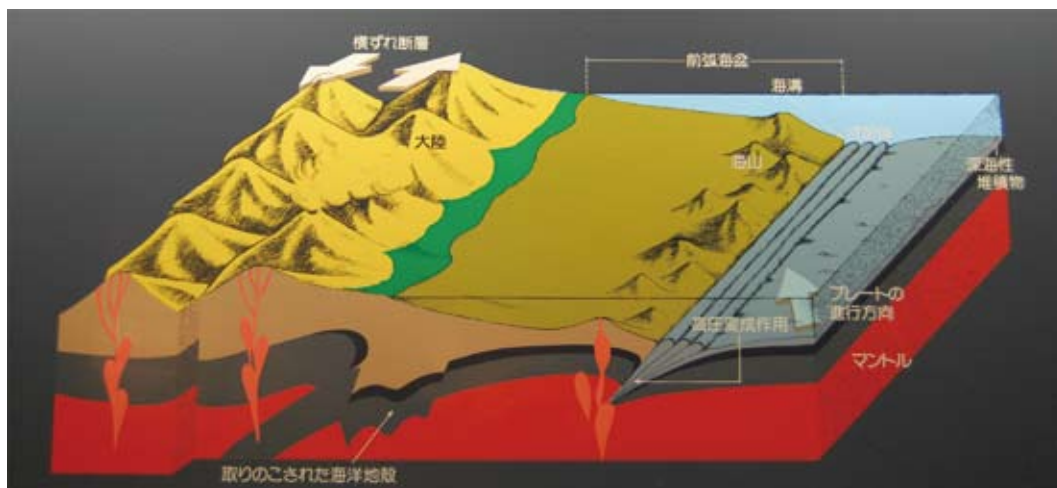


テーマパネル1

かいこう ころ  
**海溝にあった頃**

常設展示室



上川盆地の歴史は、1億年以上も昔の海の時代から始まります。

北海道が、まだその姿を現していなかった1億6,000年前のジュラ紀末期頃、上川盆地周辺には広大な海がひろがっていました。当時の北海道周辺地域にあった海洋プレートは、ファラロンプレートと呼ばれ、北方へ向かって移動していたと考えられています。そのため、北海道周辺域には海溝は存在せず、ユーラシア大陸東縁のジュラ紀付加体とファラロンプレートが、トランスフォーム断層を境にして接していたと推定されます。

やがて、1億4,500万年から1億4,000万年前頃にかけて、ファラロンプレートと海嶺を軸にして対をなすイザナギプレートが徐々に北上してきました。通常海嶺では、対になるプレートが成長していきますが、双方のプレート自体も一緒になって移動してきます。従って、この海嶺が、北海道周辺を通過することによりプレートの運動方向は、北方向から北西～北北西方向へ急変したと推定され、これに伴いイザナギプレートが、西方の大陸へ向かって沈み込みを開始したと考えられます。そしてジュラ紀の海洋地殻の一部は、大陸東縁部と沈み込みを始めた海溝の間に挟まれるような形になりました。その範囲は、上川盆地を含む空知～エゾ帯全域にわたっていたと考えられ、その上には海底火山活動による酸性凝灰岩や深海性の珪質堆積物が次々と堆積していききました。

(地質学・岩石学担当学芸員 向井正幸)